

平成 3 0 年度主要研究課題

研究機関名：富山県環境科学センター

研究課題名	研究目的	研究の概要	研究期間	所 属
温暖化による降雪の将来変化と消雪用地下水の合理的利用に関する研究	降雪の将来変化が冬期間の地下水位へ与える影響を解析し、地下水の合理的利用の推進に役立てる。	雪に関する情報を収集し、統計解析を行い、将来の雪の降り方の変化について基礎的な情報を得る。 雪の降り方の変化が消雪設備の稼働、地下水揚水量等と与える影響を把握した上で、地下水流動モデルを用いて地下水位を計算する。 これらのことを踏まえ、消雪設備の散水強度、散水方法の見直し等による地下水利用の合理化を検討する。	平成 30～32	大気課
PM2.5 の越境／地域汚染の寄与に関する研究	県内の PM2.5 による汚染の状況を把握するとともに、汚染特性を明らかにして PM2.5 の発生源対策の推進に役立てる。	立山での PM2.5 の観測で得られる成分分析データから高濃度時における越境大気汚染固有の特性を明らかにする。 また、平野部の一般環境観測局において PM2.5 の観測を行い、高濃度時の化学成分の特徴を把握し、発生源等について解析する。 さらに、自動車排出ガス観測局において PM2.5 の観測を行い、一般局との比較から自動車の影響について評価する。	平成 30～32	大気課
富山湾沿岸海域における栄養塩類の動態特性に関する研究	河川からの栄養塩類、有機物等の流入が沿岸海域に与える影響について明らかにし、富山湾の水質環境保全の推進を図る。	小矢部川及び神通川河口海域において栄養塩類、有機物及び植物プランクトン（クロロフィル a）の調査を水深別（50m まで 5 層程度）に行い、栄養塩類、有機物及び植物プランクトンの立体的な濃度分布やその季節変動を明らかにし、河川が河口海域に及ぼす影響を考察する。 また、栄養塩類等と植物プランクトンの増殖の関連について、それらの分布の関係から検討する。	平成 28～30	水質課
県内中小河川の河川環境特性に関する研究	中小河川の生物化学的酸素要求量に対する自然的要因の影響を研究し、汚濁負荷低減対策の基礎資料として活用する。	人為的影響が小さい中小河川において、水質の変動がみられる時機に河川縦断で調査を行い、生物化学的酸素要求量(BOD)が高くなる要因を検討する。特に、自然的要因である藻類に着目し、河床付着藻類量、クロロフィル a、栄養塩類等と BOD との関連性を研究する。	平成 29～31	水質課
循環型社会構築（災害廃棄物）に関する研究	災害廃棄物発生量等の推計及び災害廃棄物を適正に処理する体制整備の推進を図る。	住宅の延べ床面積が広く、一戸建て戸数の割合が多い等の地域特性に応じた災害廃棄物の組成割合等を検討し、本県の建物実態に即した発生量等の推計を行うとともに、発災後の災害廃棄物処理実行計画を早期に策定するため、災害情報及び被害情報を取り入れた地理情報システムを活用した、発生量の迅速な推計手法、効率的な処理フロー等を検討する。	平成 28～30	生活環境課